



地区補助金事業報告

◆プロジェクト名 (プロジェクト番号 04)

広島原爆養護ホーム『神田山やすらぎ園附属診療所』に、エアーマットを寄贈し、入所者の褥瘡予防および対策を行う。

<贈呈式>

日時 2017年9月27日(水) 15:00~16:30

場所 広島原爆養護ホーム『神田山やすらぎ園』1階
機能訓練室(広島市東区牛田新町1丁目18番2号)

◆プロジェクトの概要

公益財団法人広島原爆被爆者援護事業団が経営する広島原爆養護ホーム「神田山やすらぎ園附属診療所」に、エアーマットを寄贈し、入所者の褥瘡予防および対策を行うプロジェクトを企画実施しました。「神田山やすらぎ園」は、広島市内北東部神田山の丘陵地帯に位置し、入園定員100人の特別養護施設として開設された原爆養護ホームであり、施設は入所者の健康管理を目的とした附属診療所です。

超高齢化社会を迎え、高齢の施設入所者が多くなり、寝たきり入所者も増加しています。また疾患により長期臥床を余儀なくされる機会も多く、入所者に発症する褥瘡の問題は最重要課題の一つとなっています。

エアーマットを使用することにより、褥瘡発生率を低下させることを期待できますが、現状では十分な台数はなく、今回の寄贈により台数の確保と、職員の介護負担軽減にも寄与するものです。

◆実施報告

エアーマット贈呈式は、9月27日(水)15時より予定通り広島原爆養護ホーム神田山やすらぎ園1階の機能訓練室にて執り行われました。当クラブからは、新迫高志会長、山崎健次国際奉仕部理事はじめとする総勢8名が参加致しました。

贈呈式に先立ち、施設見学を行いました。神田山やすらぎ園は3階建てで、2階から3階に2~4人部屋が配備されており、入所者定員は100名で、常に満床状態で施設運営をされているとの事でした。贈呈式にご参加頂いたようなお元気な方も入所されておりましたが、多くの方が寝たきり状態で、見学を通じて介護職の方の負担の大きさを実感しました。現状でのエアーマットの使用状況報告も伺い、施設全体で現在17名の入所者の方がエアーマットを使用している状況でした。また、エアーマット使用が望ましい状況の入所者の方々までは、十分に行き渡る台数でないことも伺いました。今回の補助金事業活動は、入所者の方々の病状管理や健康増進に直接的に好影響を及ぼせる事業であったと参加者全員が見学を通じて確信することが出来ました。

続く贈呈式では、入所者の皆様や施設スタッフが見守る中、厳粛に執り行われました。まず、新迫高志会長より、高井巖理事長へ目録贈呈が行われ、今回の活動の経緯や意義、ロータリー財団の活動概要などをご紹介頂きながらご挨拶頂きました。次に山崎健次国際奉仕部門理事より、ロータリークラブの国際奉仕部門の活動状況も併せてご挨拶頂きました。続いて、公益財団法人広島原爆被爆者援護事業団の高井巖理事長より、今回の活動への感謝状と謝辞を



贈呈式 2017年9月27日(水)



頂戴しました。高井理事長からは、現在の介護現場の現状や問題点を含めお話し頂き、広島東ロータリークラブの今回の活動に謝辞を述べられました。

滞りなく終了した今回の贈呈式の模様は、テレビ取材に来ていた広島テレビにて当日の夜に放映されました。さらに11月15日(水)のクラブ例会では寄贈先の広島原爆養護ホーム神田山やすらぎ園 小川博司園長、中村克行主幹をお招きしてやすらぎ園の現状とともに、寄贈したエアーマットの有用性について卓話をしていただきました。

この度の活動が、ロータリー財団の理念でもある「人道支援」の最たる活動の一つであり、身近で小さな我々の支援活動が、より高度な世界平和へと繋がることを祈念してこの度の地区補助金プロジェクト報告書とさせていただきます。